



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA
 1-5-6 TOSABORI, NISHI-KU,
 OSAKA, JAPAN

October 2002 No. 4
 Chartered July 20, 1982

標語 YS SLOGANS (2002~2003)

クラブ会長 : 『心と思いを合わせ、共に生きる』
 国際会長 : " Growth through service " 『奉仕による成長』
 アジア会長 : " Into the bright light of selflessness "
 『無私な奉仕で輝く未来へ』
 西日本区理事 : 『ベクトルを合わせ、地域と共に活動を』
 中西部長 : 『心(こころ)量が2!ワイズ・スピリッツを輝やそう!』

クラブ役員 Officers

会長 : 松浦 孝次
 副会長 : 中村 茂高
 " : 谷川 俊一
 書記 : 山田 孝彦
 " : 島中 彬
 会計 : 三浦 直之
 ネット会長 : 松浦 和子
 Y連絡職員 : 浜野 昌保

月間強調テーマ : 『 Public Relations / Wellness 』

☺☺☺ 10月の聖句 ☺☺☺
 【 Biblical Message of the Month 】

☺☺☺ 10月の例会 ☺☺☺
 【 October Club Meeting 】

目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。
 わたしの助けはどこから来るのか。
 わたしの助けは来る、天地を造られた主のもとから。
 どうか、主があなたを助けて足がよるめかないようにし
 まどろむことなく見守ってくださるよう。
 見よ、イスラエルを見守る方はまどろむことなく、眠ることも
 ない。
 主はあなたを見守る方、あなたを覆う陰、あなたの右にいま
 す方。
 昼、太陽はあなたを撃つことがなく
 夜、月もあなたを撃つことがない。
 主がすべての災いを遠ざけてあなたを見守りあなたの魂を見
 守ってくださるよう。
 あなたの出で立つのも帰るのも主が見守ってくださるよう
 に。今も、そしてとこしえに。
 (旧約聖書 詩篇 第121篇)

○ 10月 第1例会

日時: 2002年10月16(水) 18:30~20:30
 場所: 東洋ホテル3階

司会 川村 一夫君

1. 開会点鐘 松浦 孝次会長
2. ワイズソング 一同
3. ゲスト紹介 松浦 孝次会長
4. 聖句朗読 隅田 保君
5. 今月のテーマ 浜野 昌保君
6. 日々の糧・晩餐 一同
7. 「日本を自然保護大国に〜クマの棲む豊かな森を次世代に」 (ビデオも)
 日本熊森協会・企画推進局長 瀬戸 悠子氏
8. お誕生日祝い 一同
9. ニコニコ献金 ドライバー
10. その他連絡・報告 各担当
11. 閉会点鐘 松浦 孝次会長

☺☺☺ Attention Please ☺☺☺

1. 10月 第1例会のゲストスピーカーは、自然保護団体「日本熊森協会」(本部・西宮市)の中心リーダーである瀬戸悠子様です。武庫東中学校に在学中、師の森山まり子教諭(同協会長)と共に、絶滅寸前のツキノワグマの保護に立ち上がられました。その過程は感動のドラマです。日本の森の危機的な実態と、いま何をなすべきかについてお話いただきます。
2. 11月4日(祝・月) 土佐堀YMCAカーニバルへの献金を10月 第1例会にご持参下さるようお願いいたします。

○ 10月 第2例会

日時: 2002年10月23日(水) 18:30~20:30
 場所: 大阪YMCA土佐堀館9F

*10月例会当番 第4班

福永、池永、隅田、川村

*10月お誕生日 Happy Birthday!!

谷川迪子メネット1日、山村メネット9日、
 鎌田メネット22日、湯浅君30日

【 クラブ統計 Statistics 】

2002年9月	種別	第1例会	第2例会	BFポイント	ニコニコ献金
在籍会員 25名	メン	17名	11名	9月: 切手 605 gr.	9月: 17,300円
うち広義会員 1名	メネット	7名	名	現金 4,500円	(02.7月以降の)
例会出席 18名	ビジター	名	名	(02.7月以降の)	累計: 74,400円
うちメイクアップ 名	ゲスト	7名	名	累計: 切手 1,145 gr.	(除く、クリスマス献金、
出席率 70.1%	合計	31名	11名	現金 10,000円	オークション、記念献金)

紀元前586年、イスラエルは、新バビロニアの王ネブカネザルによって征服され、何千という人々がバビロニアの捕囚となりました。

今回の聖句は、捕われた人々が遙かに故国を偲びながら、苦難の中で神の救いを信じて疑わなかった真情をうたった詩篇の言葉です。

私は若い頃、京都青年会議所(JC)の会員でした。JCソングの一つに「JCの仲間には皆信じあう、足並みを揃えて行こうじゃないか」という歌詞があります。私の最近の我がクラブに対する思いは「センテニアルの仲間」とこの歌詞を置き換えたという気持ちです。

仲間との信頼関係は、そこからまた、新しい意欲とエネルギーが湧いてくるものだと思います。また信じあうということがJCやワイズ同士の域を越えて、人間同士の信頼として広がってゆくことを願っています。

バビロンの捕囚の心を支えた神への信頼が現代においても生かされて、人類が互いに信頼しあう平和な世界が実現することを祈っております。

(聖句選、コメント：黒田敏之)

≡≡≡ 9月 第1例会 ≡≡≡

【Report of the September Club Meeting】

9月18日(水) 18:30-20:30・東洋ホテル3F

プリテン：松浦 孝次

- 9月例会は、部屋も一杯の31人の出席。「アメラジアン子どもキャンプ」でリーダーとして活躍していただいた大阪YMCA国際専門学校の韓国留学生の皆さん6人、中村幸枝メネットと共に圭さんが、ゲストとして出席された。なお、同じリーダーであった国際専門学校OBの岩田愛子さんは、所用あって欠席。
 - 9月はメネット月間。プログラムの運営はメネットが中心に、という方針のもとに、司会は谷川有美子メネット、開会点鐘は松浦和子メネット会長、聖句朗読は福永滋子メネットが担当。
 - ワイズ国際大会に出席した鈴木謙介メンからその模様が語られた。盛会だったものの、オーストラリアという地域性からか参加者がやや少なかった由。元国際会長の総会があったが、22人ほどのメンバーのうち、鈴木メンが現役で最年長。ますます壮健で、われわれ後輩に指導いただきたいと思う。
 - 続いて隅田恵子メネットが、大阪YMCAのボランティア・チューターとして、昨年春から取り組んでいる体験を語られた。2人の中国人のチューターとしての経験から、「小さな国際交流」の意義を感じているとのスピーチであった。
 - 「アメラジアンキャンプ」の振り返り。中村茂隆直前会長が、7本のビデオを苦勞して20分に編集したものを、全員が別室で鑑賞した。あのキャンプでの感動がよみがえる。韓国留学生の皆さんの感想をご紹介します。
- ① 朴 基赫さん(29歳・男性)：愛の種をこちらが

On September 18, the club's September meeting was held at the Toyo Hotel with a total of 31 Y's men, Y's menettes, Y's ling and guests in attendance.

With its emphasis on "Y's menettes' activities" in this month, Y's menettes presided the meeting. We were particularly happy to see six Korean students from the Osaka YMCA Professional School who devoted their time as volunteers to assist the children from the Amerasian Christian Academy in Korea at the Amerasian Children's Camp.

At the beginning, Y's men KENSUKE SUZUKI told his experiences at the 65th Y's men International Convention held in Sydney in August. He was the most senior Y's men at the Convention. Y's menette KEIKO SUMIDA then spoke about her experience as a volunteer tutor for the two Chinese students of the Osaka YMCA Professional School. She has started her volunteer service since the last spring.

It was the most impressive time for every member when six Korean students told us their impression of the Amerasian Children's Camp. We were convinced through their short remarks that the Camp gave inspiring spirits not only to the Amerasian children, but all the participants.

We shared the excitement of the Camp again when Y's men SHIGETAKA NAKAMURA showed us its videotaped film.

もらった思い、大きく育てて行きたい。小さな子供たちが自覚心高く、熱っぽく交流している姿に心をうたれた。

② 柳 景元さん(29歳・男性)：久しぶりに泣いた。が恥ずかしくはなかった。人間、お互いに同じ赤い血が流れていることがわかれば、差別はなくなる。

③ 曹 惠英さん(20歳・女性)：キャンプの前日に故郷から大阪に戻った。キャンプは面倒だと思っていたが、最後の晩、笑顔でいた子供たちが泣きながら別れを惜しんで話しているのを見て感動した。みんなひとつになったと思った。

④ 邊 恩敬さん(21歳・女性)：私もキャンプの2日前大阪に戻って、当初憂鬱だったが、キャンプに入って気持ちが変わった。子供たちをみて自分自身も変わらないといけなさと実感した。その後もメールや手紙で交流している。

⑤ 金 相珍さん(29歳・男性)：キャンプは感動した。私が来日したとき、言葉も文化もわからず孤独感をもったことが思い起され、子供たちも同じ思いなのだと感じた。外見を見て人を判断するが、みんな同じ人間であるということだ。

④ 李 英玉さん(28歳・女性)：子供たちには愛が足りないのではと思い、熱い愛情をもって接した。

最後に、浜野昌保メンが、留学生の人たちがボランティア・リーダーとして参画してくれたのも、YMCAの学校でないと出来ないことだ。6人はほんとうによくがんばってくれた。心から感謝すると語った。

● 盛り上った例会は、余韻を残しながら、松浦和子メネット会長の閉会点鐘で幕を閉じた。



(大阪YMCAのボランティア・チューターの
体験を語る隅田恵子メネット)

≡≡≡ 9月 第2例会 ≡≡≡

【 Report of the September Officers' Club Meeting 】
9月25日(水) 18:30~20:20 書記：山田 孝彦

- アメラジアン子どもキャンプが成功裡に終わったが、当事業について、西日本区あてのCS事業実施報告の内容、沖縄からの礼状(第5面に記載)、会計報告などについて協議した。会計報告は、吟味したうえ公式の確定版にする。
 - ワイズ関係は、10月6日の中西部会、10月8日の茨木クラブの10周年記念例会の出席予定者について、報告があった。
 - YMCA関係は、
 - ① 土佐堀運営委員会について松浦委員から、大阪YMCA月例報告を中心に。
 - ② チャリティラン実行委員会について三浦委員から、会場設営を担当すること、枚方YMCAから実行委員長がでること。
 - ③ クリスマス実行委員会について松浦委員から、例年より開始時刻を1時間早めて17時から礼拝が、18時から祝会がもたれること。
 - ④ カーニバル実行委員会について鎌田委員から、当クラブ単独でバザーとポップコーンを担当し、他グループと一緒に清掃とポスターを担当することが決まっているとの報告があった。なお、ふるって献品をしようと申し合わせた。
- また、チャリティランの選手選出の現況について、「女性の参加歓迎」との畠中メンから中間報告があった。
- 10月プログラムは、第1面記載のとおり。
 - 11月プログラムは、BF強調月間であり、切手切りを皆です。またメインテーマとして、大阪YMCAミャンマー・プロジェクトの進捗報告のほか、谷川寛メンの提案を受けて、YMCA同盟世界大会に参加した若い人達を代表して、鈴木えみさん(南YMCAスタッフ)にレポートしてもらう。
 - 12月例会は、7日、YMCAクリスマス礼拝に先立ち16時から開催。18日に東洋ホテルでクラブ納会をもち、今年を締めくくる。
 - さきの取り決めにもとづき、クラブとして全員のYMCA会費の納入をおこなうことを確認。

♂

♂ ● クラブのホームページを作るについて、その内容、ソフト、運営等についての案(たたき台)を貴多野、藤原、石津、松浦の4人委員会で検討する。



(9月例会でYMCA留学生の皆さんも参加して、「アメラジアンキャンプ」のビデオを見て振返った——その1)



(YMCA留学生の皆さん真剣な表情——その2)

YMCA ニュース

連絡職員 浜野 昌保

*ついこの間まで半袖を着ていたのに、すっかり秋めいてきました。秋はワイズ・YMCAとも行事の多い季節ですが、みなさんと一緒に活動できるのが楽しみです。実りの多き秋にしましょう。

★大阪南YMCAボランティア養成講座

「ボランティアって？」

日時：10月5日(土) 午後2時~午後5時

講師：長尾文雄氏(大阪YMCA常議員)

場所：南YMCA

申込み：南YMCA ℡06(6779)8362

★六甲マントルピースを囲む会

日時：10月18日(金) 午後7時~午後9時

ゲスト：円満堂修治氏(写真家)

参加費：5,500円(1泊2食) 日帰りの方は2,500円

申込み：六甲研修センター ℡078(891)0050

(次面につづく)

★大阪YMCA早天祈祷会

日時：10月18日(金) 午前7時30分～8時30分
場所：大阪YMCA会館 10階チャペル
証し：仲島理恵氏(大阪YMCA常議員)
問合せ：大阪YMCA TEL06(6441)0894

≡≡≡ 9月BFニュース ≡≡≡

【 Report of the Brotherhood Fund in September 】 BF 委員長・栗山佳三

◇現金提供者：栗山、黒田、谷川寛、山田、中村隆君
◇切手提供者：山田、山村、黒田、松浦、谷川寛、中村隆、
石津、栗山、福永、鈴木、田中君
★今月の殊勲賞：山田君(260g) 山村君(140g)

今月の所感

鈴木 謙介

Roland Dalmas (国際事務総長) の 16 Aug. 報告の中に Sydney で行われた Int'l Council Meeting について異例で気になる記事がありましたので、その部分を切抜いて載せてもらいます。いずれは、日本代表の Council Member から経緯が開けることですが、

“The International Council meeting had diverse expressions. It had a tight agenda, intense work and active participation of the delegates. This was very positive and all motions approved are a great challenge for our Movement during this year. At the same time the meeting had many moments of high tension that made many participants – delegates and observers – feel very uncomfortable. It is not good for our Movements that participants at the Council Meeting experience this feeling. Again I want to emphasize that Y's Men International is a voluntary movement which must include people as much as possible in a process of giving and receiving and that this collective participation should be in a spirit of happiness, unity, sharing and learning from each other.”

シドニー国際大会参加報告

三浦 直之

第65回国際大会が、8/1～8/4までオーストラリアのシドニーで開催され、セテニルからは、鈴木、栗山、山田、三浦メンが参加しました。総参加人数は約720名でした。随空からシドニーまで約11時間、時差は時間程度で時差ボケはありませんが、季節が日本とは逆なので(現地は冬)、セーター等がいらします。

大会はシドニーのダーク・ツルバーに面したコンベンションホールで開催され、叔クラブの活躍により、大変スムーズに運営され良かった

たです。大会で議論された問題としては、ワイズメンバーの減少、これからのボランティアのあり方等が議論され、問題の背景には世界的な少子高齢化、貧富の格差の拡大傾向などが挙げられます。

観光としては、参加者全員でのハーバークルーズ、センテナリアルメンバー等と、オペラハウス、シドニー郊外のブルマウンズ等を楽しんできました。栗山メン、山田メンはアーズロック、ブリスベンも楽しんでこられました。

豊かな自然と暖かい人情に触れ、思い出に残る大会でした。

「関西ののちの電話」チャリティーコンサート その2

8月2日(金)シンフォニーホールで開催された「関西ののちの電話」コンサートへの協力に対し、同理事長・今村一之氏と事務局長・八尾和彦氏から、当クラブあてに丁寧なお礼状をいただきました。概要下記のとおりです。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

「大変お世話になりました。チケット購入、会場での奉仕をいただいたことを感謝します。当日は、694人の入場者があり、皆さまのご協力によって夏に音楽を楽しむチャリティーコンサートが定着したことを喜んでます。今回の収益は約80万円(協賛金・広告料含む)で、関西ののちの電話の運営・活動費にあてさせていただきます。皆様のご自愛とクラブのご発展を祈ります」

お知らせ

1. 当クラブの20周年を祝して、ワイズメンズ国際会長 Bill Ward 氏、国際事務総長 Rolando Dalmas 氏から、丁寧なるレターが当クラブあてに届きました。

2. 11月4日(祝・月)開催の土佐堀YMCAカーニバル(土佐堀館)への献品を10月第1例会にご持参下さい。生鮮食料品を除く新品であれば、なんでも結構です。バザーで販売します。1人2～3品の提供をお願いします。収益は、留学生支援やクリスマス献金に用いられます。あなたの善意をぜひお寄せください!!

3. 個人消息です。

① 山田孝彦メンが、このたび「日本YMCA同盟青少年奉仕賞」を受賞されました。おめでとうございます。

② 谷川 寛メンは9月21日(土)三重YMCAを訪問、理事会および四日市ワイズの例会に出席し、「世界のYMCAと日本のYMCAの協働」というテーマでゲストスピーカーをつとめました。四日市ワイズの会員は20名を有し、三重YMCAを強力に支援しているそうです。

③ 山村幸明メンは体調を崩されていましたが、快復されました。が、例会出席はしばらく見合わせられるそうです。

アメリカン子どもキャンプ 続報

沖縄の「アメリカンスクール・イン・オキナワ」代表のセイヤー・みどり様と参加した子どもたち全員から、クラブあてに礼状(9月14日付け)がきました。

以下に、セイヤー・みどり様と、子どもたちを代表して Arisa Garrison さん(14歳)の礼状をご紹介します。なお、子どもたちは、ひとりひとり日本語と英文で書いており、一生懸命に文章を考えたことがうかがえて、健気でほほえましい限りです。

☆☆☆☆☆☆☆☆

○ 空の高さに秋の訪れを感じる今日この頃、如何おすごしていらっしゃいますか。

さて、このたびはスクールの子どもたちを「アメリカン子どもサミットキャンプ」に招待くださいました。ありがとうございました。さまざまなプログラムに参加させていただいたり、バーベキューやディナーをごちそうになったりと、子どもたちは思う存分楽しんでおりました。また、3日目のミーティングでは、子どもたちが互いに体験などを発表しあって、公立学校の経験がない子どもまでが号泣するというシーンに出会い、この上ない貴重な経験ができたと同時に、忘れられない思い出を作ることができました。

このような機会を子どもたちに与えてくださったことに、心から感謝申し上げます。

末筆ながら皆様方の益々のご発展とご健康を祈念いたします。子どもたちの礼状を同封いたしましたので、ご笑覧くださいませ。

とり急ぎお礼まで。

アメリカンスクール・イン・オキナワ
代表 セイヤー・みどり

○ 私達アメリカンスクールを Friendship Camp へ、招待してくれてありがとうございます。いい思い出を作るいいかいになりました。とてもかんしゃしています。また、きかいがあればもう一回こんなキャンプがあるとうれしいです。どうもありがとうございます。

From: Arisa Garrison



(8/25 別れの記念に お互いのTシャツにサインしあうリーダーと子どもたち)



(8/25 さよならパーティで、大阪YMCAのリーダーと関西テレビのリーダーたち 14人が、子どもたちにお別れの歌をうたった)

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

ゲストからのメッセージ

○久しぶりにみなさんにお会いできてとても嬉しかったです。アメリカンのキャンプのお話しとても感動的で素晴らしいかったです。(中村 圭)

○OY's men's Club にご招待させていただいてまことにありがとうございます。私はあまり力になれないですが、また今度ご機会をお願いいたします。(金相 珍)

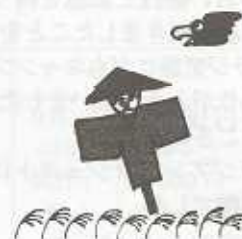
○今回、このようないい所にお呼びいただきありがとうございます。アメリカンキャンプでの思い出は一生忘れられません。ずっと行きたいです。また、こういう機会があれば是非呼んでください。ごはんおいしかったです。(曹 惠 英)

○本当に貴重なお時間いただいてまことにありがとうございます。今回のプロジェクトで子供たちに愛の種を蒔いたと話しましたが、それが子供たちだけでなくリーダーとして参加したわたくしもその愛の種をもらいました。その種を大切に大きく育てようように育てます。(朴 基 赫)

○参加させていただいてありがとうございます。みなさんのようにボランティア活動などができるようにがんばります。(柳 景 元)

○アメリカンキャンプを通じて本当にいろいろ勉強になりました。本当に与えてあげながら幸せになることを深く感じました。(李 英 玉)

○今日、お呼びくださってありがとうございます。良い話しやおいしい食事など楽しいお時間をすごしました。また、ぜひお呼びください。(邊 恩 敬)





“ごぶさた”メッセージ

- いつもお世話になります。急な出張で例会欠席です。
(貴多野乃武次)
- 再就職しましたので例会開催の時間に間に合いません。残念ですが欠席します。
(川村 一夫)

会員からのメッセージ

- アメリカンプログラムで活躍されたボランティアリーダーの皆さんと一緒に例会がもてたことは大変嬉しいことです。「この方々が将来どこかでワイズメンズクラブの仲間になってくれたらなあ〜」と今考えています。
(山田 孝彦)
- 韓国リーダーの皆様アメリカンご苦労様でした。
(三浦 直之)
- アメリカンキャンプで大活躍した韓国からの留学生の皆さんが例会に参加され一気に若返った感じの例会でした。それにしてもアメリカンキャンプは本当に素敵なプロジェクトでした。国境をこえた友情と気持ちのふれあいが感じられみんなの気持ちが一つになった気がしました。
(藤原 正巳)
- アメリカンキャンプには参加出来なくて残念でした。でも色々とお話しをきき感動しました。今日はメネットナイトで、何年か前までメネットの手作りのお料理を持ち寄り苦労もあったが楽しかった事を思い出しました。
(福永 滋子)
- 御長寿の鈴木謙介さんのお話しに感銘しました。多謝。
(福永 嘉彦)
- 山田さん、日本YMCA同盟青少年賞の受賞おめでとうございます。我がクラブから選ばれ大変うれしく思います。これからも山田さんを先頭にみなさんYMCAへのご奉仕をよろしく願いいたします。
(浜野 昌保)
- “アメリカン子どもキャンプ”の大成功おめでとうございます。感動深いビデオにお話しに感謝一杯でした。ありがとうございました。
(島中 ひろみ)
- アメリカンキャンプにお手伝い下さった韓国からの留学生の皆様のご苦労に涙が出ました。
(中村 幸枝)
- 「こどもサミット」を終えて久しぶりの韓国の留学生ボランティアに再会し、キャンプの思い出がよみがえってきました。本当に感謝。これからも支えて下さい。
(中村 茂高)
- クラブ創立 20 周年記念事業の「アメリカン子どもキャンプ」が成功裡に終わったのは、皆さん一人一人の愛の奉仕の御蔭です。それを裏で支えた多くの人々にも敬意を表します。本日のゲスト、大阪 Y の留学生の皆さんが若い感性と熱意を持ってボランティアリーダーとして参加頂きましたことをあわせて感謝します。「アメリカン子どもキャンプ」発起人の前会長中村茂高さんありがとうございました。お役目ご苦労様です、有難うございます。
(谷川 有美子)
- アメリカンプロジェクトにご協力下さったみなさんご苦労様でした。
(谷川 寛)

- アメリカンキャンプの一部にでも参加したいと思っておりましたが果たさず残念でした。キャンプに関わられた方々に心より感謝します。
(田中 穰二)
- 先日、メネット 5 人で鈴木謙介さんのお宅におうかがいしました。美饈メネットがお元気の頃よくメネット会をさせていただいた事をなつかしく思い出しました。最高のエスプレッソのスイーツ(謙介さんオリジナル)ごちそうさまでございました。
(隅田 恵子)
- 年 1 回メネット強調は良いことです。わがクラブのメネットさんは粒揃いの働きやさんです。
(鈴木 謙介)
- アメリカンのキャンプの最終日に参加しか出来ませんでした。感動をありがとうございました。1944 年 9/21 の誕生日です。
(新保 正秋)
- 先日、鈴木謙介さんのお宅にメネットでおじゃましました。楽しいお話しと美味しい紅茶をありがとうございました。
(坂本 千春)
- 今月の聖句のコメントが韓国留学生の方々によき印象を与えたことを知り、嬉しく思いました(自分で言うのも変ですが)
(黒田 徹之)
- 20 周年記念の「日韓アメリカンサミット」をお手伝いいただいた Y の日本語学校留学生の皆さんに再会出来て感激です。本当に有難うございました。(栗山 圭三)
- 若い人たちを交えての例会は一味違って良かったですネ！キャンプの感動を再び味わえてとてもよい機会でした。
(石津 雅人)



(アメリカンキャンプ初日の夕べ、沖縄、奈良、韓国各地から海洋センターに集って、しばしの憩いをとる皆さん)

《 編集後記 》

- 今月も 6 面だてとなりました。何と云っても、韓国人留学生の人たちが 9 月例会に出席してくれて、一緒にキャンプを振り返れたことは素晴らしいことでした。そうした記事を盛りこみました。
- 9 月号のアメリカンフレンドシップ・キャンプの写真は、栗山佳三メンの撮影によるものです。
- 9 月号プリテンの鈴木謙介メンの「所感」最終行——“ON FAST から TO FAST”は“OF FAST から TO FAST”と訂正します。失礼しました。(松浦 孝次)